

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会（第10回）
事務局	福祉保健部自立生活支援課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成25年4月16日（火） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】 高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、水野元子委員、森田純司委員、中村悠子委員、江澤和江委員、大久保昌弘委員、馬場利明委員、赤木敏一委員、森田史雄委員、ボーバル聡美委員、堀池浩二委員</p> <p>【事務局】 福祉保健部長 柿崎健一 自立生活支援課障害福祉係長 藤井知文 自立生活支援課相談支援係長 高田明良 自立生活支援課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 葺塚明、伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	1人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第3期 第10回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日 時：平成25年4月16日(火) 14:00～16:00

場 所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 13名

福祉保健部長

自立生活支援課障害福祉係長

自立生活支援課相談支援係長

自立生活支援課障害福祉係主任

地域生活支援センターそら 2名

配布資料 1：第3期小金井市地域自立支援協議会委員名簿（資料1）

2：地域生活支援センターそら事例報告①～③（資料2）→会議終了後、回収

3：検討事例からのチャート図（資料3）

4：地域自立生活支援センター 事例①～⑤（資料4）→会議終了後、回収

5：自立支援協議会2013（資料5）

6：「これだけは準備しておきたい！」（家庭版）（資料6）

1. 開会

事務局 (藤井係長)	・開催にあたり、配布資料（資料1～6）の確認。
---------------	-------------------------

(1) 部長挨拶

事務局 (藤井係長)	・4月の人事異動に伴い、福祉保健部長に異動があった。新任の部長よりご挨拶申し上げます。
柿崎福祉保健部長	・これまでごみの関係の担当が長かった。福祉部門は全くの初心者のため、勉強していきたいと思っている。 ～宜しく申し上げます。～
事務局 (藤井係長)	・なお、柿崎部長は公務の関係で、15:00過ぎに退席する。ご了承いただきたい。

(2) 委員挨拶

事務局 (藤井係長)	・資料1を参照していただきたい。4月の人事異動に伴い、5番目の保健医療関係者として、東京都多摩府中保健所から江澤和江委員の推薦をいただいた。 ・4月1日付で委嘱を行ない、本日より会議へ出席となった。
江澤委員	～宜しく申し上げます。～

2. 議題

(1) 相談支援に関する協議②

高橋会長	・本日の会議は、出席者13名となり、本協議会は成立。 ・大変申し訳ないが、都合により15:45に退席する。その後は、矢野副会長に
------	---

	<p>一任する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議題(1)の「相談支援に関する協議②」に入る。まず、水野委員から事例報告をお願いしたい。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援部会を4月10日に開催し、3つの事例について検討した。 ・始めに「地域生活支援センターそら」について簡単に紹介する。「地域生活支援センターそら」は、特定非営利活動法人小金井市精神障害者地域生活支援協議会が運営している。この法人では、4つの事業を展開している。 ・地域活動支援センターI型は、交流室を開放し、交流の場と相談の場としての機能を果たしている。 ・指定特定相談支援事業として、サービス等利用計画作成を行なっている。 ・平成20年4月より、デイケア事業を実施。栗山健康運動センターの機能回復室にて、毎週金曜日の10:00~12:00にグループ活動を実施している。 ・平成20年1月より、地域自立支援協議会の事務局を担っている。 ・本日は、地域活動支援センターI型と小金井市デイケア事業を利用している利用者についての事例報告をさせていただく。 ・資料2の事例①について報告する。20代のケースについて。～事例報告のため議事録の掲載はせず～
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・まず矢野副会長より、相談支援部会で事前に検討した内容についてコメントをお願いしたい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3にチャート図で示しているの確認してほしい。 ・本人と主治医の信頼関係は構築されているようだが、関係者との見立てに差異が生じている状況。そのズレを修復できなければ難しい状況がある。本人の生活基盤をどのように確立すればよいのかというところがポイントとなる。 ・高校のクラブ活動までは普通に生活できていたが、その後に生活の乱れが生じている。パターンとして決まっている中では安定して過ごせていても、それが崩れた時に自分で再構築が出来ず、生活が乱れてしまう。 ・働くことのイメージや自立することについてどこまで理解できているかという部分もある。 ・ドクターの見解にある幼さという部分もあるが、それだけではなく、障がいとして見ていかなければ、対応を間違える可能性がある。 ・チャート図を見ながら、今の報告について質問等をお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医の意見が自分の思いと重なるため、そこでうまくはまってしまっている状況だと思われる。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・セカンドオピニオンのドクターの見解はどうだったのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいとはっきりとした診断はされていないが、その傾向についての指摘があった。 ・今後の取り組みとして、きちんと心理検査を受け、障害年金を申請し、手帳も取得して障がい者雇用を目指していくという提案があった。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の手帳を取得するという事なのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に精神や知的というような話は出ていないが、障がいのある人として制度を利用するという提案があった。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本人には伝わっているのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・同席した診察の場面での話であり、本人にも伝わっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの違った意見について、本人はどのように感じているのか。

水野委員	・セカンドオピニオンのドクターの言っていることはわかるが、自分は転院しない、という話をしてきた。その発言を受けて、今のドクターでは、制度の利用はできないことを繰り返しやりとりしてきたが、それで構わないと結論を出し、もう一度一般就労へチャレンジしている状況。
馬場委員	・普通高校を卒業しているのか。
水野委員	・普通高校ではあるが、不登校等の人が多く通う高校だと本人から聞いている。そのため、高校生の時に劣等感を感じたことはなかったとのこと。 ・国語力もあつたし、スポーツも3年間続けたことは、自分の自信につながっていると表現されている。
高橋会長	・アルバイトが続かない理由はどの辺りなのか。
水野委員	・厳しく言われることに免疫がない。今の主治医の良さは、否定したり、注意をしたりするようなことがないため。 ・施設利用の中で、少し指摘された程度であっても、周囲に自分のどこがいけなかったのか、など確認する行動が顕著になる。
高橋会長	・自宅で刃物を持ち出す騒ぎとなっているが、施設利用の際に行動化したことはあるか。
水野委員	・行動はないが、スタッフに対し大きな声を出したことは2~3回ある。
高橋委員	・アルバイト先等でそのような行動が出てしまう可能性もあるのか。
水野委員	・人間関係ができていないところでは、口をつぐんでしまうタイプ。施設に対する安心感を持てるようになってから、出現していると推測される。自宅での行動も本気でということではないと思われる。
堀池委員	・関係者会議は定期的実施しているのか。
水野委員	・何度も繰り返し実施している。 ・直近では、本人を含めて実施し、一定の方向性が出たが、その場での話という認識となり、決定した話がなかったことになってしまう状況だった。そこを関係者で働きかけを行ない修正している。
高橋会長	・心理検査は実施できていないのか。
水野委員	・19歳の頃に実施しているようだが、その結果についてはどの関係者も把握できていない。
森田（史）委員	・家族との話し合いについては十分なされているのか。
水野委員	・母親とは電話等でのやりとりができています。 ・父親とは面接を実施し、本人の様子等を伝えている。これは母親より、父親には何も話をしていないとの話があり、母親を交えて三者で現状についての話をする機会を設けた。
森田（史）委員	・最終的には、自立を目指すことになると思うが、20代であれば、4人での生活がまだまだ続くと思われる。安定した生活を送るためには、本人に対する周囲の支援も必要ではあるが、家族への支援体制も必要。家族の理解はどうか。
水野委員	・両親は転院を勧めているが、本人が拒否している状況となっている。
高橋会長	・当事者のグループに入ることで、自分自身の気づきへとつながる場合がある。交流室を利用する中で、他の当事者の人たちに対して、本人はどのように感じているのか。
水野委員	・自分は障がい者ではない、と4年程前に一旦利用が途切れている。再利用となつてから少しずつではあるが、コミュニケーション等について自分は他の人と違うかも知れないと口にするようになってきている。しかし、スタッフ等の指摘

	<p>を受けて、言葉上では表現するようになっていて、という状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べると、自分は障がい者ではない、という考えは少なくなっていると思われる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここできちんと対応しないと、膠着状態が続き、あっという間に数年が経過してしまう。障がいの理解も含め、生活基盤の再構築が必要。 ・例えば、西早稲田にある発達障がいの就労支援施設「Necco（ねっこ）」等の利用を勧めるという方法もある。 ・障がいを持ちながらも頑張っている姿を見たり、違う集団の中に身を置いたりすることで、視野の広がりを期待しながら、支援していく方法もある。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は障がいではない、ということが根本にあるため、障がいのある人たちの中に入ることに自体に抵抗がある。 ・今月より多摩府中保健所のデイケアの利用がスタートしたところ。この利用は、自分の障がいを受け入れてということではなく、日々のやりとりで指摘をされる中、訓練に行ってみようというところでの利用になっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今のような取り組みを継続していくことが大切。少しずつ変化はしているような状況は伺える。生活基盤の構築を目指して、支援を広げていくことが大切だと思われる。 ・次の事例の報告をお願いします。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事例②について報告する。60代のケースについて。～事例報告のため議事録の掲載はせず～
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・チャート図に示したが、うまくつながったケース。今後は、高齢者サービスへスライドしていくことになる。 ・単身生活ゆえ、24時間の見守り体制が必要。怪我をしていることに気づかないなど感覚の弱さがある。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような一般就労をしていたのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・親類が飲食店を営んでおり、そこの手伝いをしていた。利益が少ない労働を20年近くやってきた。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・生計はどのように成り立たせているのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・老齢年金と生活保護。
江澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的に何か疾患はあるのか。また、住民健診等は受けているのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年住民健診は受けている。 ・内科・眼科・皮膚科・歯科等多数かかっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の行動が大胆というのは、視力の障がいがあるのに行動の幅が広いという意味か。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そうではない。見えていないということもあると思うが、周りを見ずに歩いていたり、障害物があってもよけずにぶつかっていたりする行動のことを指している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・対人トラブルに発展することはあるか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・起きてはいると思うが、相手方が本人のメガネを見ると視力の弱い方ということは認識できるため、大きなトラブルはないと思われる。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護を利用していないのはなぜか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援部会でも同様の意見があがった。現状では、活動することを中心に組み立てを行なってきている。しかし今後は、訪問看護やデイサービス等の利用へ方向転換をしていくことも視野に入れ、検討を行なっていく必要性は感じて

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護となると活動性とは結びつかない部分ではあるため、そのタイミングについての検討は必要。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・視力の弱さがあるため、見守りという意味での訪問回数を増やした方がよいのではないか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・右目は見えないが、左は若干の視力はあるため、全く見えないということではない。元々、人と交流すること自体に関心が薄い方ではあるが、地域活動支援センターの利用は楽しんでいる様子が伺える。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・配食サービスは利用されているのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者サービス 3 日、障害福祉サービス 2 日の週 5 日利用されている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症という部分ではなく、加齢による問題が増えてくるというケース。 ・次の事例について報告をお願いしたい。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事例③について報告する。30 代のケースについて。～事例報告のため議事録の掲載はせず～
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事例①と似通った部分あると思うが、チャート図に示したとおり、本人からの一方通行が多い。自分が困った時に電話を中心とした手段で相談しているが、こちら側が返していく部分がつながらない状況。 ・課題としては、生活基盤の構築と自己理解や仕事をしていくことへの意欲をどのように育てていくのかというところ。 ・1 日数時間の家内労働で中堅サラリーマン程度の月収をもらっているという状況が、世間とのギャップとなり、他では働く気持ちになれない状況となってしまう。 ・親亡きあとの兄弟関係の変化やトラブルも予測される。現段階から家族を含めた取り組みが必要であると思われる。そのための支援の在り様を検討していければよいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・裕福な家庭環境では、よく見られるケース。事例の報告を聞く限りでは、統合失調症というより、被害感情の強さ等からアスペルガーの傾向が強いように感じる。 ・今の労働時間で中堅サラリーマン程度の月収をもらっているという状況は、本来はあり得ない。親亡きあとに大変な生活となってしまうのは目に見えている。家族を含めたやりとりが必要。母親からの相談がないのはなぜか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談は入ってこないという状況であり、その理由はわからない。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・だからキーパーソンが母親となるのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・受診の同行等、母親が中心となって関わりを持っていることは明らか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・その辺りが課題と思われる。家庭内暴力のような状況だったり、十分に働けていないのに、お金を渡してしまう状況だったり。現状を優先するばかりで、将来を考えられているとは思えない。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的には、金銭管理は大切なこと。月収をもらって、その一部を家庭に入れたり、貯蓄したりするようなことはしているのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が自由になるお金は 3 万円。残りを母親が貯蓄している。高額な買い物をする時には、母親に貯蓄の中から出してもらおう形となっている。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が本人に代わって貯蓄をしてくれているということか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その通り。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費や食費は支払っているのか。

水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・支払っていない。 ・母親としても現状がよいとは思っていないと思うが、過去に家庭内暴力等があったことにより、今の方がまだよいという感覚だと思われる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の兄弟との関係性はどうか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仲がよいとは言えない。兄弟に対する不満はよく話に出ている。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援部会の中でも話をしたが、親亡きあとの会社の跡継ぎの問題などから、本人がはじかれる可能性は大いにあると思われる。そのようになってからでは、手遅れになる。その危険性は高い。 ・母親もわかっていないとは思えないが、母親がどのように伝えていったらよいかわからないとか、言えない実情もあると思われる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢的にもまだ大丈夫、という考えがあると思われる。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ大丈夫が続いて年数だけ経ってしまう。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・危険性をはらんでいると思うが、将来的に本人のために貯蓄していると思われる。破たんも考えられるが、子どものために貯蓄をという考えは親であれば抱くのではないかと思う。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・問題は、貯蓄ではないと思う。いくら貯蓄があったとしても、人間関係が破綻してしまっただけではどうにもならない。母親の歯止めがなければ、社会的なトラブルが生じてしまう可能性は高くある。 ・親を頼りにするのではなく、今後について考えていくことが必要な時期であると思う。 ・支援者等とのやりとりの中で、キレないで自分の感情をコントロールしながら、それなりの金額の中でどのように自分でやっていくのかを考えていかなければならない。 ・先送りしないで、今ここで最初の一步を踏み出していかなければ、あつという間に時間は経過していく。アプローチしなければ、財政が破綻しない限り、このまま経過してしまうと思われる。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている状況等、母親から相談という形がないため、切り口が難しい。そのことが、今の状況を改善できない原因ともなっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都自閉症協会のアスペルガー部会で定例会を行なっている。そこでは、学齢期の子どもから高齢の家族も参加している。親が来る場合は、どうにも手に負えなくなってという状況になっている。そこまで至るまでつながらないのは、裕福な家庭ゆえ、どこにも相談しないで経過してきてしまったという状況がある。親が困難な状況だということに気づく取り組みが必要だと思う。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と家族が同じ方向へ向いていない状況を感じた。今後は、同じ方向を向いていってもらう方策を検討する必要があるのではないか。その辺りを踏み込んでいかないといけないのではないか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・父親や兄弟の気持ちを確認する必要があると思う。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を巻き込んだアプローチをする必要がある。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟のひとりからは、以前に比べると落ち着いているとの話は聞いている。もう一人の兄弟からは、不満が出ている状況。関係がよくないというところは想像できる。父親との関係は、悪くはないと思われる。 ・母親では、月に1回会合で顔を合わせる機会があるため、やりとりする機会はある。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・父親が今後の重要なキーパーソンになるのではないか。

森田（史）委員	・まだまだ病状の不安定さを感じる。医療との関係が適合していないように感じる。入院は拒まれているのか。
水野委員	・入院生活の中で患者とのトラブルを起こすのではないのかということで拒んでいる。
高橋会長	・アスペルガーなのではないかという判断はこれまでなかったのか。
水野委員	・統合失調症ではないのではないかという見方はある。本人は、統合失調症による具合の悪さを訴えることが多い。
高橋会長	・アスペルガーや自閉症の方々が、間違っただけを飲むことで悪化している状況が現実にある。セカンドオピニオンが必要なのではないか。誤診は多くある。統合失調症なのかどうかという判断が必要なのではないか。
矢野副会長	・友達がほしいという本人の希望を軸に、人との関わり方のトレーニングを進めていくことが必要なのではないか。 ・本人への支援を適切に行なうため、関わり方も含め家族へのアプローチもする必要があるのではないか。 ・口実を作って家庭環境へ入り込む必要があるのではないか。金銭管理の価値観等、その辺りの工夫が必要。
高橋会長	・今後の課題は山積ではある。まずは第三者との関わりを増やししながら、少しずつ状況を変化させていくことが大事だと思われる。 ・続いて、森田（純）委員から報告をお願いします。
森田（純）委員	・資料4の事例④について報告する。50代のケースについて。～事例報告のため議事録の掲載はせず～
矢野副会長	・前回配布したチャート図を確認してほしい。親御さんの高齢介護の問題があり、本人の支援がうまくいかなくなってしまったという事例。 ・親御さんの方の支援機関とうまく連携していかないといけない。家庭に入る支援が子どもの支援であれば受け入れるが、自分達の支援となると受け入れられないという認識をされているので、サービス提供時にもその部分を配慮してもらいながら支援してもらわないといけない。 ・本人をグループホームに入れると、その支援が入らなくなってしまうという複雑な状況となっている。
高橋会長	・家庭内に複数の支援対象者がいると、優先度の高い方が優先され、本人がキーパーソンになってしまう。この問題についてどのように考えていけばよいのか。
馬場委員	・両親ともに認知症の傾向なのか。
森田（純）委員	・そのような状況となっている。
馬場委員	・現状から考えると、要介護1というのは区分が低いのではないか。
森田（純）委員	・今後、介護度に変化が出る可能性はある。
高橋会長	・本人がキーパーソンとなるというのは、他に兄弟がいないという状況なのか。
森田（純）委員	・その通り。 ・本人は、大切なお母さんのために何かしてあげたいという気持ちがある。しかし、起ってくる状況について受け止めきれず、支援機関へ相談が入るパターンとなっている。
森田（史）委員	・親戚もいないということか。
森田（純）委員	・本人がグループホームに入るまでは、しっかりした兄弟がいるから大丈夫だと感じていた。しかし、現状は違った。

高橋会長	・本人にとって、一番必要な支援は何か。
森田（純）委員	・家族に自分の気持ちを伝えていく勇気をつけてもらうこと。言い方や言う手段も身につけていく支援が必要。 ・家族に対しては、家族教育がもう一度必要ということで医療機関へ相談しながら進めているが、なかなか難しい現状がある。 ・キーパーソンを設定することがきちんとできなかったということが反省点の事例だった。総合的な家族支援についての反省となっている。
高橋会長	・次の事例の報告をお願いしたい。
森田（純）委員	・事例⑤について報告する。60代のケースについて。～事例報告のため議事録の掲載はせず～
矢野副会長	・夫婦それぞれの支援が必要となるが、高齢者サービスの利用の年齢までは達していない。 ・家族支援と財産管理についての支援が必要となってくる。
高橋会長	・低栄養状態についての支援としては、具体的にどのようなことを行なったのか。
森田（純）委員	・入院を繰り返すため、退院時に必ず医療機関の管理栄養士から食事の指導を行ってもらっている。しかし、なかなか指示が通りにくい状況がある。少しずつ弱っていく部分を支援する形となり、連絡が入った時には、緊急搬送という対応となっていた。
高橋会長	・飲酒があるため、食事を摂らないという状況もあると思われる。飲酒については、どのような支援をしているのか。
森田（純）委員	・指示は通らないため、なかなか難しい。関係機関とチームを組んで動いていく必要があると思っている。 ・訪問看護を試みたが、3回目で拒否され中断となってしまった。
高橋会長	・低栄養状態や飲酒の問題について、本人がどこまで理解しているのか。
森田（純）委員	・自己完結的な考え方をしている。ヘルパーさんに葬儀は市民葬で出してほしいなどの話をするような状況。自分の生き方を決めてしまっているような部分があり、そこへ届くような言葉のやりとりは難しかった。葬式をあげるのであれば、権利擁護の利用をすすめるというような形でのやりとりとなった。
高橋会長	・生きがいについてはどうなのか。やはり、諦めてしまっている状況なのか。
森田（純）委員	・生きがいは妻への送金が滞らないようにすること、立川のJRAに行くこと。その部分から支援を組み立てている。
矢野副会長	・禁酒ができれば一番よいと思うが。
赤木委員	・生活困窮状態というのは、生活保護を利用しているのか。
森田（純）委員	・生活保護ではなく、自身の蓄えで生活している。その蓄えの減りから、自分のこの先の判断をしているのかもしれない。
高橋会長	・支援を受ければ、そうではないということがわかるのか。
森田（純）委員	・中・長期的な動機づけを行なうことができなかったということが大きな反省点となっている。目先の入退院をどのように支えていくのかというところに重きを置いてしまった。
高橋会長	・妻のサポートをするためには、自分が生きていなくてはならない。その自分が生きていくためには、支援を受けなければ難しいということにつながっていくとよいと思うが。
森田（純）委員	・食べて、歩けるようになり、アパートでの生活を成り立たせるというところ

	を繰り返し伝える支援を目指したやりとりを考えている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような丁寧な支援が必要。見通しが持てないことで自暴自棄になる状況もあると思われる。 ・貴重な事例報告の提供に感謝する。 ・次回は、相談支援についてのまとめとなる。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は、報告のあった 8 つの事例を受けて、相談支援のネットワークについての議論をし、最終的に資料 5 の形へまとめていきたいと思っている。 ・それぞれの年代に必要なネットワークを記した表として資料 5 を作成した。 ・乳幼児期のポイントは、本人への支援だけではなく、保護者に対するサポートをどのようにしていったらよいのかということを考えていかなければならない。 ・本人だけではなく、家庭へのサポートが不可欠。そのような支援の在り方が求められるのではないか。小金井市の現状から、児童発達支援センターがどのように位置づいていくのか明確にできるとよい。 ・成年期に入ると今日の事例報告でもあったが、本人を取り巻く家庭環境についてのサポートが必要になってくる。 ・自立に向けての就労や生きていくための生活支援の軸となる相談支援の在り様やその背後にある家族をどのように支えていくのかというシステムの構築が必要。 ・市内にある支援機関を活用するためには、どのようなネットワークが必要になるのか、足りない部分は市を越えたところで補い、それをどのように活用していくのか。 ・60 代以降になれば、高齢サービスへの移行がある。制度の狭間の問題もある。医療との連携が重要。 ・横軸のネットワークを作りながら、縦軸にどのようにつなげていくのかということを考えられたらと思っている。 ・今回の事例と皆さんが抱えている事例をリンクさせながら、意見をお願いしたい。 ・実際のところ、今ある障害者地域自立生活支援センターとこれからできる児童発達支援センターだけでカバーできるのかという話になる。提言し、施策として反映させてもらえるとよいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある場合、早ければ 30 代から加齢の問題は生じる。一気に老化の問題にあたる。 ・年齢区分と外れる形になるが、早いうちから予防的関わりが必要となる場合もあるということを視野に入れておく必要がある。

(2) 今後の自立支援協議会の検討内容について

高橋会長	・6 月以降の今年度の方向性について検討したい。
矢野副会長	・6 月から残り 9 回の会議を経て、3 月に今年度のまとめをしたいと考えている。議論したい内容があれば出していただきたい。
高橋会長	・これまで防災、発達支援、相談支援について検討をしてきた。まだ課題として出されていないテーマについての検討もしていきたいと思っている。意見等をお願いしたい。

水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の関係者で月 1 回開催している「小金井市地域生活支援を考える会」から出された意見について報告させていただく。 ・支援機関のネットワークについての話し合いは進んでいるが、地域の中でもっと知ってもらうためのネットワーク作りとして、地域でその人がつながるための身近な相談支援の必要性について話が出された。具体的には、民生委員のネットワーク作りについて、話合ってもらいたいという意見もあった。 ・その理由としては、災害時要援護者が手上げ方式のため精神は 2 名しか申請されていない状況があり、この状況では緊急時の対応が難しいのではないかとということだった。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者となる人がどのような形でネットワークにつながっていけばよいのか、また小金井市でどのようなネットワークでつないでいくのかということについて具体的に議論してほしいということなのか。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりが希薄な人やつながっていない人への支援ということ。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉課の管轄になる内容。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・何か困っている状況があっても、障がいかどうかというところでなかなか手を打ちにくい場合がある。 ・誰が手をかけていくのかということは大きな問題ではあるが、手を出せないという状況もある。児童発達支援センターを立ち上げたことで、カバーできる部分もあるかもしれないが、疑わしい人への介入はなかなか難しい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員には、情報がすべてに回っている状況。災害時の名簿の公開についての意思確認をしている。 ・地域ごとの地図に三障がいの区分けをしながら、戸別訪問をし、調査を実施している。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・精神は手上げ方式になっているため、2 人しかいない状況になっている。そこは課題。
水野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・手上げ方式ということが、精神の人が申請に至らないという結果となってしまっている。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・SOS をキャッチしていない人にまでネットワークをつなげることは難しい。少なくとも発信している人への支援体制の検討が必要なのではないか。時間数や相談できる場所について、今の小金井市の中で大丈夫なのかということを検討していく必要がある。 ・現状では、解決が難しいと感じているため、きちんと責任が持てる体制を整えたいと思う。せっかくつながったのに残念という形にはしたくない。 ・この部分がつながったという感覚が持てれば、それ以外のところにもつながっていく可能性はあると思う。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの分野で検討する会議は持たれていて、個々のネットワークはあるが、それを束ねるところがない。それによる様々なロスも生じている。個別のネットワークをつなげていくことが必要だと思われる。そのような部分を自立支援協議会で議論して、つなげていかなければ、手を上げている人へも支援が不十分となってしまう。 ・身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいと共通している問題があると思うが、観点が異なると包括的な支援にならない。市内の様々なリソースをうまくつなげられたらと感じている。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月の会議で災害時について高橋会長がまとめたが、その後の進捗状況につ

	いて聞きたい。せっかくポイントをまとめたので、その要望等についての内容を聞きたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・森田（史）委員からの意見について、次回までに確認をお願いしたい。 ・次回の会議でも、引き続き検討する。可能であれば、事務局へ意見をお寄せいただきたい。

(3) その他

一同	・特になし。
----	--------

3. 報告

(1) 「これだけは準備しておきたい！」（家庭版）について

高橋会長	・矢野副会長から報告をお願いしたい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の PTA で防災に対する取り組みを検討し、チェックリストを作成した。障がいの有無は関係なく、行政として地域の人たちに防災に対するチェックとして参考にしてもらえればよいと思い、資料として提供した。 ・最低限、自分たちでやらなければならないことについてまとめた。 ・地域での助け合いのために、地域とどのような付き合いをしていくのかということをもう一度見直すきっかけとなればよいと思っている。 ・障がいの有無に関わらず、啓蒙活動をしていってほしい。

(2) その他

一同	・特になし。
----	--------

4. 事務連絡

(1) 次回（第 11 回）の開催について

高橋会長	・事務局よりお願いしたい。
事務局 （藤井係長）	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 5 の訂正をお願いしたい。日曜クラブは、事業廃止となっている。 ・資料 2 及び資料 4 は本日回収となるため、お帰りの際に机の上に残していただきたい。なお、内容については個人情報保護の観点から、議事要旨の内容についての調整を行なう。あらかじめご了承ください。 ・次回の会議は、5 月 21 日（火）の 14:00～16:00。場所は、前原暫定集会施設 A 会議室となる。

(2) その他

一同	・特になし。
高橋会長	・本日の会議は、これにて終了する。

以上